

主題 データでみる父母の仲と子どもとの関係

— 仲良き父母は子育て上手 —

I、はじめに

佐藤 宏治

家庭内での親子関係の崩壊、非行の低年齢化、いじめ、不登校等、子どもをめぐる問題・事件が後を絶たない。子どもを取り巻く家庭・地域・学校、あるいは行政それぞれが連携しながらこの問題に対処していくことが強く求められている。

改訂教育基本法では、「すべての教育の出発点である家庭教育の重要性にかんがみ、その役割や支援等について、新たに規定した。」との趣旨から、「家庭教育」の条文が新設された。その家庭の基盤となるのは、なんと言っても父母（夫婦）関係である。家庭内での父母の不仲が、子ども達に与えるであろう悪影響は、想像に難くない。家庭の崩壊であり、家族の崩壊につながるものである。逆に父母の仲が良い家庭では、子どもも健全に育つであろうことが、期待される。

過去の研究では、「夫婦間で配偶者に対する愛情度が高いほど家庭の雰囲気はメンバーにとって居心地の良いものであったり、家族のまとまりも高い傾向が認められ、・・・また、夫婦関係の良好さは親の子供に対する養育態度との関連でも、両親ともに子どもに対する暖かさに関わっていることが示された。」（注1）との結果が報告されている。

筆者も、自ら調査したデータをもとに家庭内での父母の仲の良いことと、親子関係についての関連、そして、そのことがいかに今の家庭で重要であるかを検証することで広く県民に示していければよいと考えた次第である。

II、調査の概要

1、対象と調査方法

高崎市内（旧群馬町）の小学校3校の6年生を対象に行った。対象者は、255名である。そのうち、両親または父母のいずれかがいないために対象外としたのは、37名であり、分析対象は218名となった。

調査は、学級担任が各学級で調査票を配布し、その場で回答を求め、回収した。

2、調査時期

2006年2月に実施した。

3、調査内容

父母の仲については、「なかがよい・どちらともいえない・なかが悪い」で調査。

父親イメージについては、(明るいー暗い、まじめーふまじめ、元気ーだらしない、責任感があるーない、自分勝手ー思いやりがある、いらいらしているーおちついている、頼もしいー頼りない、だらしないーきちんとしている、弱々しいー強そう) について5段階で評価した。母親イメージについても、父親同様の項目としたが、弱々しいー強そう、の代わりに、やさしいーこわい、を取り入れた。この5段階を得点化して平均点を求めて肯定群と否定群に分けた。

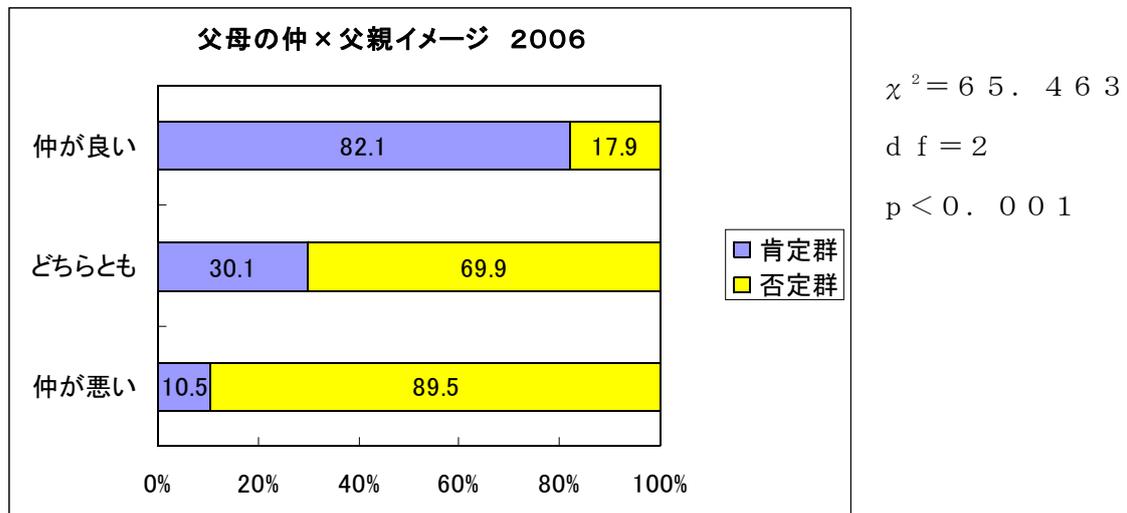
理解・信頼感については、父(母)が自分のことを、わかってくれていると、「思う・どちらともいえない・思わない」で調査した。

4. 倫理的配慮

本調査は無記名で、回答したくない場合は未記入のまま提出してよいことを説明して実施した。

III. 結果

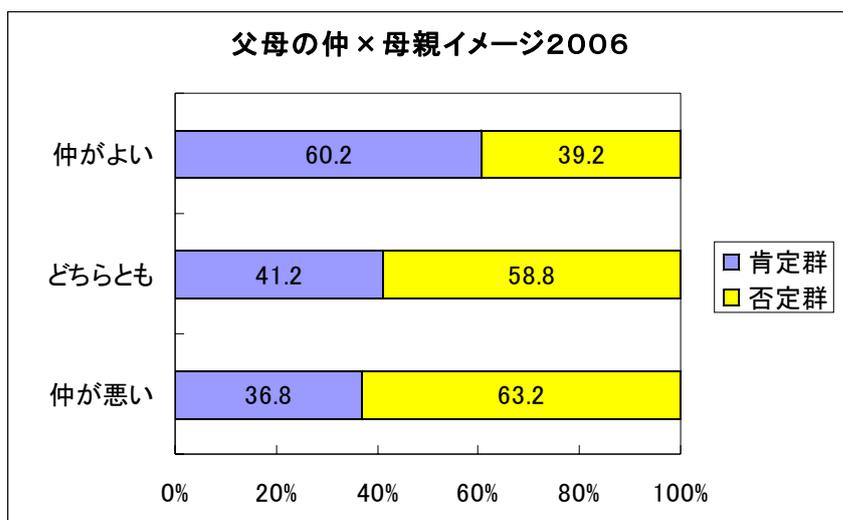
1. 父母の仲と父親イメージとの関連



父母の仲と父親イメージとの間には、関連性が認められ、父母の仲が良いと認知している子ども程、父親に対するイメージは、良好であった。逆に、父母の仲が悪いと認知している子ども程、父親に対するイメージは悪かった。

子どもの社会化を図る上での父親の役割を考えたとき、子どもの抱く父親へのイメージの良し悪しは、重要な要素である。父母の仲の良いことは、子どもの抱く父親イメージとの関係でも大切であることが示された。

2, 父母の仲と母親イメージとの関連



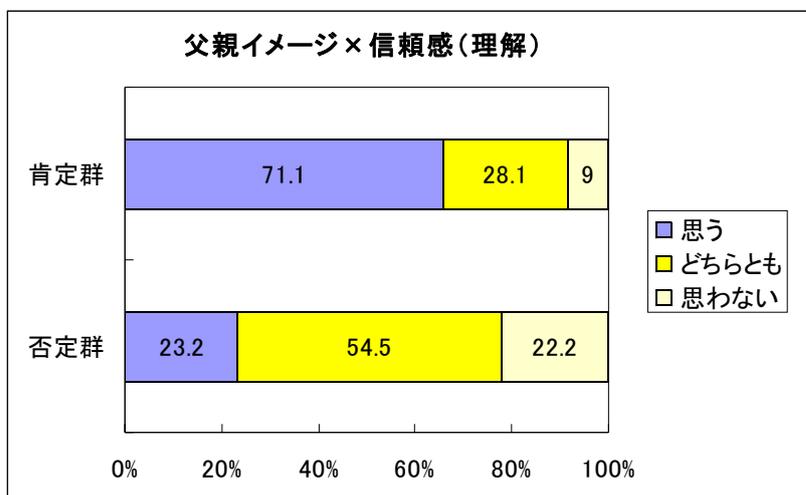
$$\chi^2 = 7.840$$

$$d f = 2$$

$$p < 0.05$$

父母の仲が良いと認知している子ども程、母親イメージの肯定群が多かった。母親と子どもの情緒的な結びつきが強いことを考えれば、母親に対するイメージが良いことは、気持ちの安定につながる重要な要素であろう。父母の仲の良いことの大切さがここでもわかった。

3, 父親イメージと父への信頼感（父からの理解）との関連



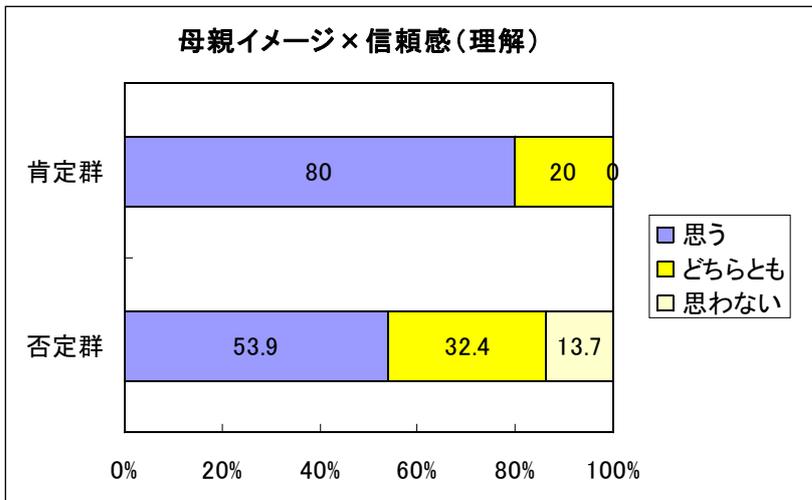
$$\chi^2 = 56.371$$

$$d f = 2$$

$$p < 0.001$$

父親イメージの肯定群には、「父親から理解されていると思う」（父親への信頼感が強い）が多く、否定群では「父親から理解されていると思う」が少なかった。父親イメージのよいことは、父親への信頼感にもつながる重要な要素であることが分かる。父親イメージと父親への信頼感との間に関連性のあることが認められた。

4, 母親イメージと母への信頼感（母からの理解）との関連



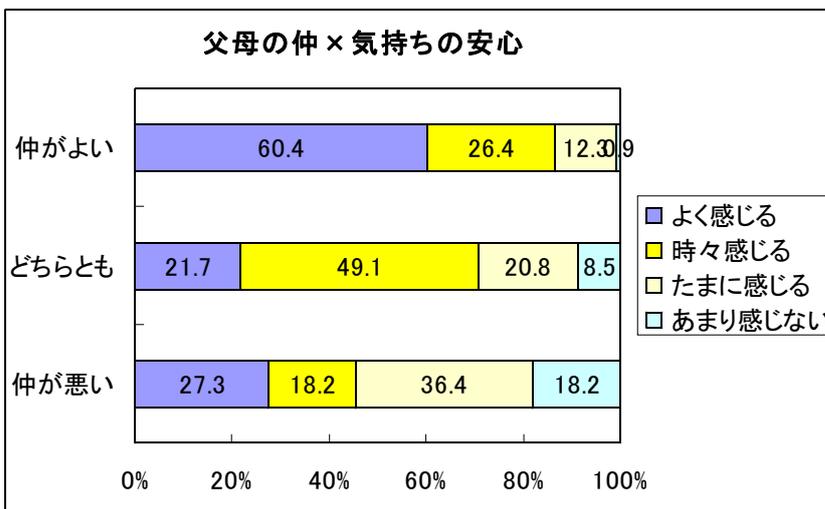
$$\chi^2 = 22.678$$

$$d f = 2$$

$$p < 0.001$$

母親イメージと母親への信頼感との間に関連性のあることが認められ、母親イメージの肯定群には、「母親から理解されていると思う」（母親への信頼感が強い）が多く、否定群では「母親から理解されていると思う」が少なかった。母親イメージの良いことは、母親への信頼感にもつながる重要な要素であることがわかる。

5, 父母の仲と気持ちの安心との関連



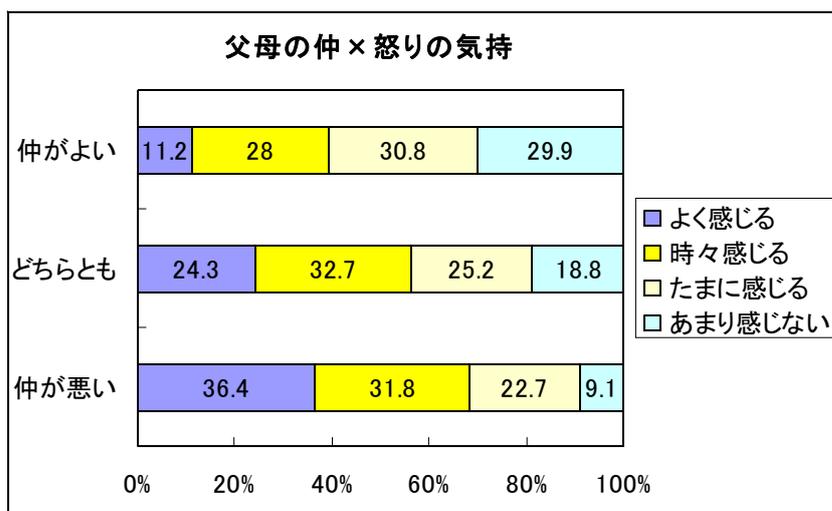
$$\chi^2 = 48.034$$

$$d f = 6$$

$$p < 0.001$$

父母の仲が良いと認知している子どもは、気持ちの安心を「よく感じる」割合が多かった。家庭内での安心な気持ちは、子どもの健全な成長を考えると、必要不可欠な要素である。父母の仲が良いことは、ここでも重要な働きをしていると言えよう。

6, 父母の仲と怒りの気持ち



$$\chi^2 = 14.901$$

$$d f = 6$$

$$p < 0.05$$

父母の仲が良いと認知している子ども程、怒りの気持ち（いらいら）を感じる事が少なかった。逆に、仲が悪いと認知している子どもは、怒りの気持ちを「よく感じる」ことが多くなっている。父母の仲が悪いことは、子どもの中に、怒りとかいらいらした気持ちを抱かせることが多くなる傾向にある。ここでも、父母の仲の良いことが、子どもの情緒面でも重要であることがわかった。

IV、まとめ

父母の仲が良いと認知している子どもは、父親・母親イメージがよいこと、父親・母親イメージのよい子どもは、父親・母親への信頼感があることが実証された。さらに、父母の仲が良いと認知している子どもは、気持ちの安定をよく感じる事、怒りやいらいらの気持ちを抱くことが少ないことも実証された。

これらのデータ結果から、父母の仲が良いことは、家庭内での良好な親子関係を形成する上でも極めて重要であることがわかった。この事実は、家庭の崩壊や子どもの問題行動等を考えたとき、群馬県民のみならず、現在の日本の親たちに強く訴えたいことであると、筆者は、結論付けたい。

最後に、この調査研究に当たって、データの集計・処理を秋田大学医学部保健学科准教授である佐々木久長氏に全面的に協力いただいたことを申し添える。

文 献

注1：菅原ますみ・八木下暁子・他：夫婦関係と児童期の子どもの抑うつ傾向との関連、教育心理学研究50巻、PP129-140、2002